



令和2年11月号

「選挙に行きたい！」

最近（11/3に書いてます）は連日の様にアメリカ大統領選挙の報道がされていて、毎回の様にトランプさんの変な踊りを見ているので、映像が頭から離れずに困っています。

選挙は私たちの意志や想いを届けて、政策として実行をしてもらう為にとっても大切な事です。私は学生時代に「私も選挙に行きたい」というAさん（女性）の支援をした事があります。Aさんは実家に暮らしているのですが、休みの日にご家族と一緒に外出している時に、街頭演説をしている男性候補者に握手を求められてから、「私はあの人を応援したい」という気持ちが強くなり「選挙に行きたい」と希望する様になりました。ご家族も初めての事で「どうすれば良いのか」と相談があり支援をする事になりました。きっかけは些細な事でしたが「選挙に行きたい」と言う気持ちになったので、成人であるAさんの当たり前権利として実行をしたいと考えました。しかし、投票をするからには各候補者がどの様な政策を掲げているのかを知った上で、Aさんに誰に投票をするのかを最終的に決めてもらわなくてははいけません。でも、選挙公報やHPを見ても難しい事が漢字で書かれており読み取る事は非常に困難です。なので、Aさんにはなるべく候補者に直接会ってもらおうと考えて、一緒に街頭演説を周る事にしました。直接話を聞き、接する事でAさんの中で「この人は良い人」「この人は嫌な人」と分類分けがされる様になりました。ところが、その時は市議会議員選挙で候補者が40名近くいたので全員に会う事が出来ません。当時はYouTubeも無く、情報へのアクセスに課題が残る結果となりました。

ある程度、候補者が絞られた所でAさんと一緒に誰に投票をするのかを決める事にしました。Aさんが「カッコいい」「優しそう」など候補者の良い所を話していた事を書き留めた上で、写真を見ながら決めたのですが、結果は最初の男性候補者ではなく、別の女性候補者を選んでいました。決め手は「この人の手が一番温かかった」でした。投票所内は付き添いが出来ないで、中に入ってから選挙管理委員会の方がサポートをして下さり、無事に投票をする事が出来ました。

私たちは日本国憲法の中で様々な権利が保障をされていますが、その方の特性や状態によっては、権利を守ったり行使をする上で制約を受ける場合があります。私は周りのサポートによって実行が出来る環境があればと常に考えており、今回は、たまたまご家族がAさんの訴えに耳を傾けて動いて下さったので実現をしました。しかし、発信が難しい方の想いをどの様に汲み取って行くのか、発信方法をどの様に獲得をして行くのか、また社会の仕組みをどう分かりやすく伝えていくのか…課題はたくさんありますが必要な事なので、一つ一つクリア出来る様に社会全体で考える事だと思っています。

嵯峨憲司